

家庭児童相談室の窓から

先日、ひょんなことからある結婚式の披露宴に出席しました。新婦のお母さんと知りあいですが、娘さんとは面識が無く、披露宴に招かれるような関係ではありません。新婦側の招待客数が少なくて困っていると言われ、いわば助っ人として出席したのです。メディアを通して、結婚式などで家族の代行をする「レンタル家族」という仕事があると聞いたことがありますが、そういう仕事を必要とする事情があることを実感させられる体験でした。

いまどきの披露宴がどんな様子なのか、興味津々でしたが、昔とあまり変わっていないことに拍子抜けしました。相変わらず「親族」や「両家」という言葉が存在感を際だたせています。けれど、他人のわたしが親族のテーブルに座っていたように、その内情にはいろいろありそうです。

かつては家族内にもめ事や喧嘩が起これば、 たしなめたり、間に入って調整してくれたり する身内がいたものでした。けれど、相談室 で受けるご相談ではそのような人物がいるケー スはまれです。身内に迷惑をかけたくないなう言葉もよく聞きます。頼れる人がいないならこそ相談機関を利用するということもが、助け合い、頼りにできるが、な親族の絆が細くなってともあります。 夫婦の争いの火種になることもあります。それぞれの実家とどうつきあっていくかは、結婚生活を左右する大きな課題になっています。

披露宴終盤のスピーチで「今後みなさんで若いふたりを支えてください」という言葉がありましたが、新郎新婦が困ったときに頼れる人をぜひ見つけて、その人に甘えたり激励されたりしながら、ふたりの道を切り開いていってほしいと願わずにはいられませんでした。

(家庭児童相談室 相談員 砂川真澄)



発行所 熊本学園大学付属社会福祉研究所

〒862-8680 熊本市大江2-5-1 ☎ 096-364-5161 (内線1753)

発行人 所長 守弘仁志 編集人 社会福祉研究所委員会 印刷所 コロニー印刷 ☎ 096-353-1291

R100 PRINTED WITH SOY INK

■古紙再生率100%の再生紙を利用しています。